

教員情報

浅野 倫子 (ASANO Rinko)	
所属	看護栄養学部 看護学科
職名	講師

【学位・業績等】

有する学位	看護学修士 がん看護学専攻
学位取得大学	武蔵野大学大学院
主な担当科目	在宅看護論
専門分野	エンドオブライフケア
主な研究テーマ	がん看護 在宅看護 意思決定支援 家族ケア
学会・社会活動	日本がん看護学会・日本家族看護学会・日本統合医療学会 NPO法人ニューマン理論・研究・実践研究会の正会員
主な業績 (教育・研究等)	<p>1. 著書</p> <p>1) 遠藤恵美子, 三次真理, 宮原知子編著: マーガレット・ニューマンの理論に導かれたがん看護実践 ナースの見方が変わり、ケアが変わり、患者・家族に違いが生まれる第Ⅱ章実践編 ナースは、患者・家族のパターンから、そこに映し出されている意味をつかむ—重要なことは、パターンを感じ取るナースの感受性, 看護の科学社, 43-51, 2014.</p> <p>2) 浅野倫子, 三次真理: 第4回 Newman 理論に導かれ、患者・家族との対話を核にしたケアリングパートナーシップのケアを日常の看護実践に織り込む過程—1つの実践事例紹介—. がん看護, 24(3), 南江堂, 303-307, 2019.</p> <p>2. 論文</p> <p>1) 浅野倫子, 遠藤恵美子: 最期の療養生活のあり様に揺れるがん患者とその家族と訪問看護師との対話を通じた看護ケアの研究—ニューマンの健康の理論に基づいたケアの試み—, 武蔵野大学紀要, 2012.</p> <p>2) 古里倫子, 遠藤恵美子, 高木真理, 宮原知子: 第7回ターミナル期のAさんとその両親と私の寄り添い ニューマン理論に導かれた寄り添いから生まれた‘つながり’のケアとそれが意味すること, マーガレット・ニューマンの理論に基づく看護実践—看護師の見方が変わり、ケアの違いを生み出す—, 看護実践の科学 38(8) 43-53, 2013.</p> <p>3. 学会発表</p> <p>1) 宮原知子, 森谷紀代子, 古里倫子, 倉持亜希, 高橋麻里子: ニューマン理論に基づく終末期患者とその家族(意識)の拡張を促すケアのあり方—修士課程の学生との授業を通しての探究—, 日本がん看護学会誌 25(特別号), 113, 2011.</p> <p>2) 古里倫子, 遠藤恵美子: 最期の療養生活のあり様に揺れるがん患者とその家族と訪問看護師との対話を通じた看護ケアの研究, 日本家族看護学会プログラム抄録集 19回, 102, 2012.</p> <p>3) Rinko Furusato, Emiko Endo: Pattern Recognition Through Dialogue in Family -Nurse Partnership Care within Margaret Newman's Theory and Differences Made in Both Family And Nurse, 11th International Family Nursing Conference, 2013.</p>